



ホビット
 2003年にインドネシアのフロレス島で発見された、小型原人ホモ・フロレンシエンシス。小説種族の小人たちになぞらえ、ホビットと称される。奇怪な動物たちがいる島へ、いつどうやって渡ったのか？ 体も脳も、ここまで小型化したのはなぜか？ 1万年数千年まで生き残ったあと、どうして消えたのか？ 謎はつきない。

フロレス島にいた動物たち

- 縮小化したソウのなかまヒグミーステゴドン (Stegodon Roraimae robustus) ホモ・フロレンシエンシスと同時期に絶滅
- 巨大化したハゲゴウのなかま (Leptoblastus robustus) ホモ・フロレンシエンシスと同時期に絶滅
- 巨大化したラット (Papagomys armandvillei) 現生種
- コモドオオカゲ (Varanus komodoensis) 現生種

資料元: Gert D. van der Berg, Hammar & M. Hedges

地球館地下2階：古代人の復元(ホビット)

2023

6
June

5
 1 2 3 4 5 6
 7 8 9 10 11 12 13
 14 15 16 17 18 19 20
 21 22 23 24 25 26 27
 28 29 30 31

7
 1
 2 3 4 5 6 7 8
 9 10 11 12 13 14 15
 16 17 18 19 20 21 22
 23 24 25 26 27 28 29
 30 31

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

長年におよぶ調査で得られた化石や石器という証拠を、解剖学と考古学の知識にもとづき比較研究することによって、身体の特徴や精神活動が推測され、さらに想像力を加味して復元が完成します。地球館地下2階では、猿人・原人・旧人の復元像を展示しています。